

教育委員意見交換会

日時 令和4年10月17日(月) 午前10時30分～午後1時00分

場所 堺市役所 高層館20階 第1特別会議室

出席者 河盛幹雄委員、宮本功委員、鈴木真由子委員、新谷奈津子委員、長田翼委員

(事務局)山崎久樹教育次長、長山秀基教育監

中山真裕美教委総務部長、伊藤修士教委総務部理事、
岩井伸司教委総務課長、橋本宏司教育政策課長、
富岡重幸教職員人事部長、樋口信征教職員企画課長、
竹内新学校教育部長、桑田裕介教育課程課長、
藤本慎也教育センター所長、成澤淳一学校ICT化推進室長、
至田義朋教育政策課長補佐、楠本奈央子教育政策課企画係長

案件

- ・11月補正予算(令和4年度堺市一般会計補正予算)について
- ・令和4年度堺市教育委員会表彰(職員栄誉の部・業務功績の部・教育功績の部)の被表彰者の決定について
- ・令和5年度堺市立堺高等学校入学者選抜について
- ・オンライン英会話について
- ・第1回総合教育会議について

・11月補正予算(令和4年度堺市一般会計補正予算)について

新型コロナウイルス感染症への対応などの予算確保を行うため、第4回市議会定例会に補正予算の計上を予定しており、現在の状況を説明。

(主な意見)

- ・堺市でも水道の基本料金が免除されていると思うが、学校の電気料金やガス料金などは減額免除対象となるのか。
- ⇒本件については、物価高騰の影響を受けた生活者等への支援のための施策であり、光熱水費の減額について、学校施設は対象外である。

・令和4年度堺市教育委員会表彰(職員栄誉の部・業務功績の部・教育功績の部)の被表彰者の決定について

令和4年度堺市教育委員会表彰(職員栄誉の部・業務功績の部・教育功績の部)を行うに当たり、令和4年10月11日に開催した教育委員会事務局職員で構成する表彰審査会で被表彰候補者を決定した旨を説明。

(主な意見)

- ・特になし

・令和5年度堺市立堺高等学校入学者選抜について

令和5年度堺市立堺高等学校入学者選抜について、過去3年間の募集人員及び入学者数、令和5年度の日程及び募集人員等について説明。

(主な意見)

・令和 4 年度定時制の課程について、募集人員 35 名に対し入学者 2 名という状況は、教育ができる環境ではないように思うが、どう考えているのか。

⇒定時制の課程はチューター制による弾力的な少人数授業を行っており、授業科目ごとに人数を編制しているため、実際の教育環境として 2 名だけで行っているわけではない。一方で生徒数の減少は課題であり、昨年から募集人員を減らして状況を見ているところである。引き続き、どのような対応が考えられるか検討していきたい。

・オンライン英会話について

令和 2～3 年度モデル実施の検証及び令和 4 年度中間検証等を踏まえ、令和 5 年度のオンライン英会話については、アウトプット力試し型※に習熟度(3 段階程度)を加味した内容に改善し、年間 3 回(学期に 1 回)に統一したうえで、中学校モデル校 7 校から 14 校に拡充し、令和 6 年度の円滑な全校実施を見据えた検証を行う旨を説明。※ある程度理解を深め、表現したい事柄をもとに、自分の力を試す型式。

(主な意見)

・具体的で現実的な案かと思う。「英語に対する意識・意欲に関するアンケート調査結果」について、オンライン英会話未実施校と実施校での比較もすべきではないか。

⇒未実施校へのアンケートは、CBT 調査などに同様の質問項目を盛り込む対応ができないか検討したい。

・実施回数よりも、アウトプット力試し型が有効なのかもしれない。また、教員へのヒアリング結果は大事で、オンライン英会話のメリットや実際の効果を表していると思うので、後半部分ではなく、前面に出しても良いのではないか。

・第 1 回総合教育会議について

令和 4 年 9 月 29 日の教育委員意見交換会をふまえ、第 1 回会議での資料(修正案)を提示し、「学校における ICT の活用について」「新たな学校のあり方について」「教育委員会にかかる一連の不祥事対応について」を説明。

「学校における ICT の活用について」

(主な意見)

・分析結果として「採用(任用)1 年目の利用が、低い」とあるが、今後どのように取り組んでいくのか。

⇒集計結果からみると、採用(任用)1 年目の活用が低く、早期の授業での活用を進める必要があることから、採用 1 年目に対する取組は工夫していきたいと考えている。

「新たな学校のあり方について」

(主な意見)

・各学校に配当される予算のうち、学校が自助努力で経費を削減したものについては、その学校群で使えるようになるのか。例えば、学校群内の A 学校でプール改修を行わない代わりに、削減できた費用を学校群で活用するなど考え方としてあるのか。

⇒実施スキーム(枠組み)の整理は今後行う必要はあるが、意見のあった対応は考え方としてはあり得る。複数の学校の予算をまとめて把握し、それぞれの学校群が工夫しながら執行していくことを想定している。

・学校群で工夫することによって削減した予算を同一学校群内で地域・子どもたちのために活用できるといったストーリーを示すことができれば、地域・保護者の理解も得やすくなると思う。

「教育委員会にかかる一連の不祥事対応について」

(主な意見)

・教育委員会としての決意を示すのであれば、自戒の意味も込めて、しっかりと自己分析を行う必要がある。自己分析ができて初めて、改善策や打開策が見えてくる。原因をふまえ、今後具体的にどのように対応していくのかを明確にするべきである。

⇒委員のご意見をふまえ、自己分析及び今後の対応を明確にしていく。